

econ. No. 39

特集座談会

「英語ができる＝グローバル人材」じゃない!! “第2外国語を学ぶ”意義を考える



連載column

From a Distance 11

福田都代先生 (4 ページ)

news 1 地域インターンシップ報告会

水野谷武志先生 (6 ページ)

news 1 GIS 特別講演会

水野谷武志先生 (6 ページ)

news 1 2018年度 地域研修報告会

浅妻裕先生 (6 ページ)

連載 interview

OB訪問ー働きマン22

佐々木俊紀さん (5 ページ)



連載企画

研究室の窓から

鈴木雄大先生 (7 ページ)

news 2 フロンティア講座

「先輩たちからのメッセージ」

森下宏美先生 (8 ページ)

news 2 経済学部プレゼン大会

宇土至心先生 (8 ページ)

news 2 2部財政学Ⅱで特別講演会

野口剛先生 (8 ページ)

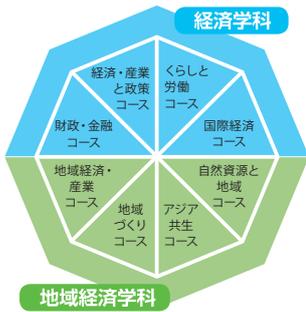
news 2 2019年就職活動が本格化

(8 ページ)



*写真：地域研修報告会に向けた準備

特集 「英語ができる＝グローバル人材」



「第2外国語を学ぶ」意義を考える

経済学部では、英語以外の第2外国語の授業が5科目（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、ロシア語）開講されていますが、2年次以降は履修する学生が少なくなる傾向にあります。近年「グローバル人材」が、国や企業などから求められるなか、英語以外の第2外国語を学ぶ意味や意義について、経済学部にも所属するドイツ語、フランス語、韓国・朝鮮語の教員の方々にうかがいました。



●司会
宮島 良明 教授



●韓国・朝鮮語
辻 弘範 教授



●ドイツ語
北原 寛子 准教授



●フランス語
一條 由紀 准教授



第2外国語から見た「グローバル人材」とは

宮島 今、大学は文部科学省から「グローバル人材」の育成を求められています。「英語ができる＝グローバル人材」とイメージされているように感じます。しかし、英語以外の語学による違うアプローチの仕方もあるはずで、グローバル人材とは、本来多種多様なものだと思います。先生方はどう考えていますか？

一條 グローバル人材とは、異なる文化や価値観を持つ人と、コミュニケーションや共存できる能力を持つ人だと思いますが、海外では「グローバル人材」とはあまり言わないようです。フランス語はアフリカ、カナダ、ベルギーなど使っている国がとて多くて、活躍の場はグローバルに開けています。

北原 日本の外とつながれる人、という意

味だと思いますが、どことつながるかを選ばなくてはならない。そのなかでヨーロッパとつながる道を選択する人がいてもいいと思います。そして語学は、自分のテリトリーを拡大できる最強の武器です。学生には「ドイツ語を話せるとどんな得があるの？」と聞かれますが、北海道とドイツ語圏は環境などが似ているので、良いものを取り入れるためにも、ドイツとつながれる人は必要です。

辻 韓国・朝鮮語を履修している学生の大部分は、防弾少年団 (BTS) や TWICE といった韓国発の K-POP アイドルが好きで、ソウルへライブを観に行くような人も少なくない。簡単に国境を超えるという点ではグローバル人材かもしれませんが、韓国の社会や文化に関心があるわけではなく、ただ移動しているに過ぎません。グローバル人材とは、現地の伝統文化の中で培われたローカルな社会があることに気づける、異

文化理解能力がある人ではないでしょうか。
宮島 アジアでは、日系企業の進出などで日本人が増えているし、誰もが英語圏以外で働く可能性がある時代です。英語を使ってアメリカのグローバル企業で働くことだけじゃなくなってきている。グローバル人材には、英語力だけでなく、現地の文化を理解するための言語力が重要になりそうですね。

文化や現実を理解するための語学

宮島 しかし学生は、就職に有利だとか単位が取りやすいとか、直接的な利益を求める傾向がある。また、国際的なことに興味を持つ人も少ないようです。そのような状況で、経済学部で英語以外の言語を学ぶ意味や意義をどう考えますか？

北原 実は、ドイツ語圏の観光地では英語ができれば十分。彼らはドイツ人以外には英語で話しかけてきます。レストラン

[ワード解説]

グローバル企業

GAF(A) (Google, Apple, Facebook, Amazon) に代表されるように、地球規模で事業展開し、世界的にブランド力を持つ企業のこと。国籍の異なる多くの従業員が世界各地で働くが、いわゆる「多国籍企業」とは区別される場合もある。

マルクスやウェーバーの思想

カール・マルクス(1818~1883)はドイツ出身の経済学者・哲学者。その著作はロシア革命等にも多大な影響を与えた。

同じくドイツ出身の社会学者マックス・ウェーバー(1864~1920)は近代社会の意義を批判的に解き明かした。

プロテスタントの精神

プロテスタントは1517年マルティン・ルターの「九十五条の提題」によって始まった宗教改革に端を発するキリスト教の一派で、聖書に基づいた

個人の信仰を重視する。そこから勤勉・清貧を旨とする生活態度が生まれた。

フランス革命

1789年、フランスで起こった市民革命。王に権力が集中する政治体制(絶対王政)を倒し、貴族や聖職者の封建的特権を廃止した。絶対王政の象徴であったバステューユ牢獄が襲撃された7月14日は、現在フランスで最も重要な祝日になっている。

フランスのデモ

燃料税増税が引き金となって、富裕層を優遇するマクロン政権に抗議するデモが2018年11月から毎週行われている。デモ参加者の服装にちなんで「黄色いベスト(ジェレジョーヌ)運動」と呼ばれている。マクロン政権は増税延期等の譲歩を余儀なくされた。



ヨーロッパの観光地の凄さ

例えばオーストリアの国土は8万4000km² 北海道の8万3000km² とほぼ同じ面積ですが、2017年度の観光客数は前者が約1億4400万人なのに対し、後者が約4725万人です。3倍の観光客が押し寄せた札幌を想像できますか？

フランス語を使える国

ヨーロッパではベルギー、スイスなど、西アフリカではセネガル、マリなど、さらにはカナダ、ハイチなどでフランス語は公用語である。また、公用語ではないが、アルジェリアなど北アフリカでもフランス語が使用されているほか、ベトナムなど一部の東南アジアの国にもフランス語話者がいる。



ユースホステルを泊まり歩いて貧乏旅行

ユースホステルとは、世界最大の宿泊施設のネットワーク。基本的には相部屋で、廉価で宿泊できる施設(ゲストハウスのようなもの)である。知らない人たちと相部屋になるが、いろいろな国の人たちと交流できる。

カフカの小説

フランツ・カフカ(1833~1924)はプラハ生まれでドイツ語の小説を書いた。ある朝目覚めると虫に化けていた男が主人公の「変身」や、たどり着けない謎の城を描いた「城」など、複雑な読後感をもたらす名作で知られる。

じゃない!!



で私がドイツ語で注文すると、店員が「あれ？」って(笑)。ドイツ語が話せるとわかったら、「やっと自分の思ったことを言える！」と大喜びで話してくれる人もいます。経済学に寄せて言うと、マルクスの思想はドイツ語で読んでこそ、本当に理解できるんじゃないでしょうか。先人の遺産を継承するためにも、ドイツ語を学ぶ意味はあると思います。英語圏だけが今の世界を作ったわけじゃない。

辻 『資本論』を著したカール・マルクスや、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』で有名なマックス・ウェーバーの思想が立ち上がってきた風土をちゃんと知ろう、ということですね。

北原 そうです。ドイツに行くのと街並みや家の中が大変きれいです。プロテスタントの精神に基づき、家庭の秩序を保つことが重要視されています。そういう宗教的な理由から出てきた文化の流れの上に、現実の日常生活の文化が形作られているということを、実際に感じてほしいです。

一條 フランスの場合、日本のメディアはおしゃれなイメージばかり流しますが、現

実は違います。フランス革命から権利を獲得する戦いをずっとやってきて、今でもデモやストを日常的にやっています。最近、フランスのデモが日本でも大きく取り上げられ、「一部デモ参加者が暴徒化した」などと報道されていますが、デモ参加者が暴徒化したというより、騒ぐのが目的の「壊し屋」という人たちが紛れ込んでいるようです。語学によって、海外のニュースに関して日本のメディアの伝え方が違うんじゃないかと疑問を持ったり、異なる視点から見られるようになると思います。

辻 韓国には、日本語ができる人はたくさんいますが、どうしても観光客向けの対応になります。韓国語が話せると、現地の人のように遠慮なく接してくれるし、おもしろい体験もできます。韓国語で使われる単語の多くは、たとえば「出張」や「学生」などのように漢字由来していますから、日本人には意外と意味が取りやすいはずなのですが、漢字が読めない学生が多いのに驚きました。日本語で辞書を引けず新聞も読めないのに、韓国語がわかるはずないですよね。韓国と日本の社会は、見た目

は似ていますが全然違います。動画サイトでK-POPやバラエティ番組を見るだけでなく、日本語でもニュースを見るなど、もう一歩進んで関心を持ってもらいたいです。

北海道の外の世界を知る

宮島 いくら言葉が流暢に話せても、その国の文化や社会、現実に行っていることを知らなかったら、中身のある会話はできないですね。経済学部の4年間というのは、語学だけでなく、その中身を学ぶ場としてあるはず。また、本学は7割の学生が道内出身で、就職先も7割が道内。日本どころか北海道から出たくないという学生もいて、北海道のひとは、島国のなかでもさらに島国根性を持つ気がします。外の世界の広さを知ってほしいと感じることはありませんか？

北原 感じます。故郷以外の場所って不安ですね。でも、北海道を良くしたいなら飛び出してほしい。いくら北海道のことを誇っても、ヨーロッパの観光地の凄さを知らないと、どのレベルに自分たちがいるのかわからないと思います。



外国語履修者の声



鈴木 悠斗さん

1年
フランス語基礎履修
[北見柏陽高校出身]



日本よりも優れた技術、古い歴史や文化を持つ国は世界にはたくさんあり、他国の言語を話せることで、新たな発見や知識を得ることができます。また、国際機関では、英語の他にフランス語が公用語として使われています。将来の視野を広げるために、フランス語の修得を目指しています。

私は英語が苦手、それよりもさらにフランス語は難しいと科目選択時にきいていました。しかし、フランス語が身近に使われていることを感じてから、関心や意欲が湧き勉強が楽しくなり、苦手な英語も並行して勉強するようになりました。

大学卒業までに、実際にフランスに行き、会話ができるまでに成長したいです。



澤田 果林さん

1年
韓国・朝鮮語基礎履修
[札幌龍谷学園高校出身]



私は高校の時から韓国の文化などに興味を持ち、韓国語を独学で勉強していました。大学に入ってから本格的に学びたいと考え、韓国語会話と基礎の授業を履修しました。授業では実際のネイティブの発音に触れられたり、文法理解をより深められたりと充実した授業内容で力がついていくのが分かります。

2年生からは外国書講読を履修することが決まりました。そこでは、普段会話などに使われる言葉から天気や株で使われる専門用語まで学ぶことに加え、実際にいまの韓国で起きている問題も知ることができるので今から楽しみです。専門的に学習していくことによって、語学力と異文化理解力を培い自分の強みにしていきたいと思っています。



前川 遥さん

1年
ドイツ語基礎履修
[札幌東高校出身]



ドイツ語を履修して、日常生活に楽しさを感じる機会が増えたように思います。例えば、「バウムクーヘン」というドイツ由来のお菓子はもちろん普通に食べても美味なのですが、語源が「木のケーキ」とわかった上で形を眺めると、味は変わらずとも風情があるように感じますし、大通り公園のクリスマス市もドイツの都市であるミュンヘンがモデルのため、一層楽しく感じられるものとなりました。そのように、何かちょっとしたことを理解する喜びを私はこの言語からたくさん得られました。

姉が辞書をくれたからという些細なことがきっかけでしたが、ふとした発見、そしてその面白さがあったため、履修してよかったと思います。今後も学習を通して更に理解を深めていきたいです。

宮島 「自分は市役所や役場で働くつもりなので関係ない」と言う学生もいますが、たとえば為替レートと無関係に地域経済を語れませんし、外国とのつながりを意識しないとまちづくりの議論ができない、というのは北海道にもあります。まちの職員であるほど国際感覚が必要になるはずです。そして、外国からは日本のことを聞かれますよね。

辻 道庁もアジアで大々的に北海道への観光客誘致を行っていますし。ただ、授業をしていると日本文化にも無自覚・無関心な人が多くて心配になります。とくに、北海道の学生には、西日本や東日本の伝統的な建築様式や生活習慣すら「異文化」なのか、と思うこともあります。

北原 北海道人は道外にも関心を持って、まず日本人になって(笑)。ドイツでは、ドイツ人以外にも世界中の人と話すことになり、「自分は日本人なんだ」と意識させられます。自分も外国人として彼らと同じ位置に立つことは、とてもエキサイティングな体験です。

一條 ずっと北海道にいても、外からは人は入ってきますし、無関係ではられませんよね。

語学のコツと楽しさ、教えます!

宮島 では、履修を考えている学生へ、語学学習のコツや魅力について一言お願いします。

一條 フランス語は、難しそうとよく言われますが、綴りと発音のルールが英語と違うだけです。とにかく耳でたくさん聞くのがコツ。授業では間違っても責めませんので、恐れず発言してください。フランス語を使える国は多いので、世界が広がって楽しいですよ。メニューが読めればフレンチ・レストランで困らないし(笑)。できれば、時間のある学生のうちに現地へ行ってほしい。私は学生時代にユースホステルを泊まり歩いて貧乏旅行をしましたが、いろいろな国の人と会い、とてもおもしろい経験ができました。

北原 ドイツ語は、できると「すごい!」と称賛されます。人にすごいと言われたい、モテたい人にはオススメです(笑)。実は、ドイツ語は意外と簡単。発音もカタカナ読みです。格変化でつまづく人が多いですが、表を壁に貼って毎日眺めていれば「これしかないんだ」と気づくはず。また、書き言葉と話し言葉の

差が少ないので、文法を一通りやったら2年生でもカフカの小説が原文で読めるようになります。よく「自分に合わない」と諦める人がいますが、最初は難しいに決まっているので、歯を食いしばってついてきてください!

辻 韓国・朝鮮語の場合、アイドルなど魅力的な相手を知りたくて勉強する人が多いと思います。他言語に比べてとっつきやすいイメージですが、韓国語にも不規則変化があり、そこでみんなひっかかる。それを乗り越えると楽しいのはフランス語やドイツ語と同じです。講読の授業では、ニュース記事を題材に、たとえば地形の善し悪しを判断して運気のよい場所を探す「風水地理学」の実践例や、つねに厳しい競争にさらされている韓国の若者たちが今の政治に不満を抱く社会的背景などについても話していますので、今の韓国社会にも目を向けたいと思います。

宮島 真の「グローバル人材」が育つことに期待したいですね。ありがとうございます。



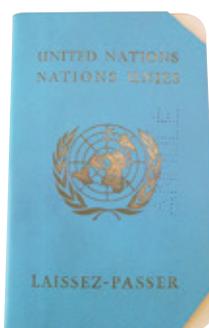
From a Distance 11

「私の修業時代」

● **福田 都代** [経済学部教授]

私は大学の教員になる前、国連の専門機関であるユネスコで5年間、働きました。国連は加盟国からの分担金によって運営され、分担金の出資比率に応じて職員を送り出せます。日本は国連予算の10%近くを出していますが、それに見合うだけの日本人職員数はなかなか確保できていません。その打開策の1つとして、国連の各機関は日本や北欧の若者を対象に、正職員と同じ雇用条件(賃金や諸手当)で、ジュニア・プロフェSSIONナル・オフィサー(JPO)という非正規職員制度を採用しており、私もこの制度で雇われました。

最初の勤務地は南米のベネズエラで、仕



国連職員の身分証明書「レッセ・パッセ」

事しながらスペイン語を学ぶという、やや無謀なワーキングホリデー生活をおくりました。その間、現地通貨が大暴落し、給料の支払いが遅れ、手持ちのアメリカドルを両替所で交換するため、行列に並び、大統領選挙の日には戒厳令も経験しました。

とりわけ厳しかったのは契約更新の際に、必要書類の到着が遅れて、身分証明書が発行されず、2か月ほど労働ビザなしの不法滞在者になったことです。通勤バスでいつ何時、警察官の職務質問を受けるかもしれないと、緊張を強いられました。運が悪ければ、拘置所送りになりかねず、ジーンズのポケットに警察官買収用の現金を隠し持っていました。

その後、正職員になり、スイスに転勤しました。ジュネーブには様々な国際機関があり、そこで働く日本人たちと知り合えました。私は留学経験も社会人経験もほとんどないまま、2つの職場で25カ国の人たちと共に働きました。海外で働いた間は、その国の外国人労働者でしたが、同僚たちがアパート探しを手伝い、生活のルールを教えてくださいました。

日本はいま、実にあいまいな形で外国人労働者の受け入れを始めようとしています。日本はまだ閉ざされた社会で、外国人には理解しにくい細かいルールがたくさんあります。本学の学生は卒業後も北海道で就職したい希望をもつ人が多いですが、海外でなくてもよいので、若いうちに一度は北海道の外に出て、異なる価値観をもつ人々と出会い、私の元同僚たちのように他者を温かく受け入れ、生活習慣の違いについて親切に伝えられる人になってほしいと思います。



大学で語学に開眼。 韓国での交換留学を経て、 日本語教師の道へ。

佐々木 俊紀さん
ささき としのり

大学卒業後、日本語教師の資格を取得し、韓国に渡った佐々木俊紀さん。現地での生活が6年目になりました。なぜ海外で働くのか、一時帰国中の佐々木さんに聞きました。

◀大学の授業で使用している教科書を持って

働きながら学べる2部に入学

現在、韓国ソウルで日本語教師として働く佐々木俊紀さん。初めて韓国語を学んだのは、大学時代だった。

「入学したのは北海学園の2部です。なにしろ国立大より学費が安い。奨学金を借りて後で返すより、働きながら通える夜間の大学がいいな、と思ったんです」

昼間は飲食店のホールで働き、自分で学費を稼ぎながら大学に通い始めた。第二外国語に選択したのは韓国語。ハングルの文字の不思議さに惹かれたからだった。

たまたま韓国の大田(テジョン)大から来ていた交換留学生と仲良くなったこともあって、もっと話せるようになりたいと決意。アルバイトを増やして資金を貯め、3年次の夏期研修に参加。韓国に3週間、滞在した。

「初めての海外だったので緊張していたんですが、大田大の学生ががとても親切で…。今度は留学生としてまたここに来たいと思いました」

佐々木さんは3年生のうちにほとんどの単位を取り終え、4年次には交換留学生として10カ月、大田大に派遣された。

ホームシックを契機に会話が上達

大田大の寮で生活しながら、大学の授業に出るようになると、すぐに韓国人の友達ができる。毎日のように一緒にいたので、寂しさは感じなかったが、3カ月目でいきなりホームシックになった。



大学3年次、韓国大田での夏期研修

「夜、友達とお酒を飲んでいたら急に涙が出てきて…。国際電話で家に電話をして、家族に励ましてもらったのですが、不思議なことに、その日を境に韓国語が全部聞き取れるようになったんです。胸のつかえがとれて、吹っ切れたのかもしれませんが」

この時期に仲良くなった韓国の友人や先輩とは今も親しく連絡を取り合う仲だ。寮では中国やラオス、インドネシアなどから来ている留学生とも知り合い、世界がどんどん広がっていった。

「振り返ると、この留学がターニングポイントでした。今度は大学という枠を飛び出て、韓国で社会生活してみたいと思うようになったんです」

帰国した佐々木さんは卒業後もフリーターとして働いてお金を貯め、半年間、専門学校に通って日本語教師の資格を取得。今度はワーキングホリデーを利用して1年間、韓国で働く道を選んだ。

「留学中、韓国の友人に日本語の表現を尋ねられることが多かったのですが、うまく説明できなくて。ちゃんとスキルを学ぼうと思って日本語教師の資格を取ったんです」

教師としてキャリアを重ねて

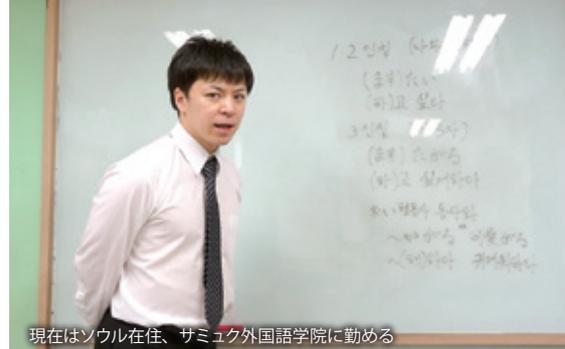
その後、韓国の知り合いからの紹介で利川(イチョン)近くの「韓国極東大学校」で日本語講師を経験。半年の任期が終わるころ、日本人教師を探していたソウル市内の塾「サミュク外国語学院」から声をかけてもらい転職。いまは社会人を対象に日本語を教える仕事に就いて4年目になる。

「ひとつの言葉の意味を、違う言葉で表現する語彙力がついて、教えるのが上達したと思います。それに、自分が韓国語を勉強した時につまづいたことと、日本語を学ぶ韓国人が間違える部分が一一致しているので、そこを集中的に教えられるというのも強みですね」

佐々木さんはずっと韓国で暮らす覚悟をしているわけではない。いつか札幌に戻ってきたという気持ちもある。でも、まだしばらくは向こうで頑張るつもりだ。

好きなだけ学べるのは大学時代だけ

K-POPや韓流ドラマが好きなわけではな



現在はソウル在住、サミュク外国語学院に勤める

*サミュク外国語学院公式サイト <http://www.sda.co.kr/>

く「純粋に言語として韓国語が好きで続けてきた」という佐々木さん。いまは職場の同僚に習い、中国語も勉強中だ。

「言語を学ぶと、背景の違う外国人と接点を持てる。英語ならどこでも通じるという人もいけど、英語のフィルターがかかると生の声は聞けないんじゃないかな。やっぱりお互いの文化を理解するには、お互いの国の言葉を知ることが大事だと思います」

ただし、言語を学んだから仕事に結びつくと考えるのは間違いだと指摘する。

「語学だけじゃダメなんですよね。その言語を使って何をやるかが重要。僕の場合は日本語教育でしたけど、専門の知識やスキルを身に付けねばなりません」

だから、大学の後輩たちに伝えたいのは、体験してみるの大切さだ。

「卒業してから何かを学ぼうとしたら1時間何千円も払わなきゃならないのに、大学は望めば何時間でも教えてもらえる。いろんな体験ができるプログラムもある。人から聞いたことで満足せず、チャンスがあるのなら自分でトライしてみたい。それができるのが大学時代だと思うんです」

卒業後は公務員か、就職か、教職か。そんな三択で考えてしまうのはもったいない。将来を絞らず、自分の知的好奇心に従って進んでみるのもいいのではないかと。「行き当たりばったりのようだけど、経験をいかに次につなげようかと常に考えてきた」という佐々木さんのように、手探りするうちに自分だけの道が見つかるかもしれない。



- profile
- 1987年 札幌市生まれ
 - 2006年 北海道札幌西陵高校卒業
 - 2010年 本学部2部経済学科卒業
 - 2011年 札幌国際日本語学院 日本語教師養成科修了
 - 2012年 ワーキングホリデーで韓国に1年間滞在
 - 2014年 韓国極東大学校に日本語教師として勤務
 - 2015年 サミュク外国語学院に日本語教師として勤務

[平成 30 年 11 月 3 日]

天売島×経済学部による 地域インターンシップ報告会が開催

11月3日に経済学部のフィールドワーク型実践科目「地域インターンシップ」の成果報告会が開催され、学内外から参加者が集まりました。「地域インターンシップ」は、学生が地域に中・長期間滞在し、様々な地域活動に従事することを通じて、地域の魅力・課題・可能性を学び、地域の方々とともに考え、行動・発信する授業です。実践の場を羽幌町天売島として活動してきた3年間の成果が学生7名によって報告されました。

今年は天売島フェリーターミナルそばにある空店舗を改修し、8月に2日間限定のBBQイベントを開催し、多くの島民や観光客に集まっていただき成功をおさめたことが報告されました。さらに、空店舗改修のための資金を学生自ら起ち上げたクラウドファンディング（プロジェクトをウェブサイトで公表し、共感と賛同してくれた人から小口で資金を集めること）で獲得したとのことでした。学生発表後の質疑応答では、学生から明かされた苦労話が印象的でした。また、島の交流拠点として空店舗の活用をどのように進化させ、軌道に乗せていけるかが今後の課題とのことでした。将来の展開が楽しみです！[水野谷]



[平成 30 年 11 月 27 日] 特別講演会

「札幌市のGISの活用の取組み」を開催

11月27日に経済学部の開講科目「応用地理情報システム論」の一環として、この講演会が開催されました。GISは「地理情報システム」のことで、様々な地理情報（例えば店舗位置、地価、地域人口、地形など）を地図表現したり分析できる統合的なコンピュータシステムです。身近なところではGoogleマップやYahoo!地図のような形で日常的に浸透しており、経済学部でもこれを重要ととらえ、PC実習室でGISを実習形式で学ぶ授業を開講しました。

この講演会では、札幌市の公園を管理運営している、札幌市建設局みどりの推進部の細江まゆみ氏をお招きし、公園行政の実務分野でGISがどのように使われているかについて話していただきました。札幌市は2700余りの公園を持つ国内有数の大都市ですが、大小様々な公園をどのように市内に配置し、そして各公園にどのような遊具や設備を設置するかが重要な課題になっています。この課題の解決に細江氏はGISをフル活用しており、その事例を発表してくださいました。講演会に参加した、公務員・地歴科教員・学芸員志望者、あるいはGISに興味がある学生にとって非常に刺激的な発見と学びの場となりました。[水野谷]



[平成 30 年 11 月 24 日・12 月 1 日] 1部ゼミナール・2部ゼミナール

地域研修報告会が開催される

今年度の地域研修の総まとめに当たる地域研修報告会が2日間にわたり開催され、延べ23ゼミが研修成果の報告と質疑応答に臨みました。

地域研修は、2年次以降のゼミナール所属学生が履修する講義で、現地での研修を通して現実の生きた経済・社会を学ぶことを狙いとし、次のようなプロセスで進行します。

まず、現地研修を意義あるものとするため、4月以降、調査テーマの設定、各種資料の収集・分析などの事前学習に取り組みます。そのうえで、夏休みを中心に数泊以内の現地研修を実施します。その後、報告会までの期間に、テーマ設定に対して研修から何が明らかになったのかを考え抜きます。

今回の研修テーマは、人口問題、観光振興、一次産品のブランド化、公害からの再生、等バラエティに富んでいました。また、道内のみならず、水俣、浜松といった遠隔地での現地研修を行ったゼミもありました。報告では、短い滞在とは思えないほど充実した研修結果を報告するゼミ、スライドづくりやプレゼンテーションの準備を入念に行ってきたゼミが見られました。一方で、現地での経験や、得られた情報から、どのようなことがいえるのか、うまく伝えきれないゼミもありました。

今年度は、研修に前後して震災が発生し、計画の変更を余儀な



くされたゼミもあったようです。しかし、全てのゼミが無事に現地研修と報告会を終えることができました。今回の貴重な経験は、今後の学修や社会生活にとって大きな糧となるものと思われます。

[浅妻]

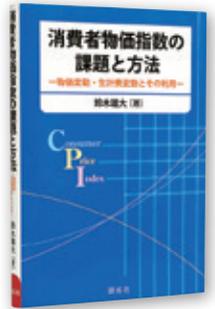
研究室の窓から

消費者物価指数は「何を」測定しているのか、その利用は適切か — 公的統計の適切な利用を考える —

鈴木 雄大 経済学部講師
すずき たかひろ

【専門は経済統計学】千葉県出身。博士（経済学）立教大学。立教大学社会情報教育研究センター学術調査員、立教大学経済学部助教を経て、2018年4月より現職。

● 近著に「消費者物価指数の課題と方法—価格変動・生計費変動とその利用—」（創成社、2018年2月）



私たちの生活に欠かせない統計

「日本の人口は何人でしょう?」と質問すれば、多くの学生が1億2000万人くらい、など、実際のデータにかなり近い数値を答えてくれます。日本の人口については「そのくらいのことは知ってる」とか「学校で前に習った」と言われそうですが、これが「国勢調査」によって得られたデータであることや、それを元に推計された現在人口であることなどは、ほとんどの学生が知らないことと思います。また、「日本人は働きすぎだ」とか、「景気は良くても労働者の給与が増えていない」とか、「日本人は貯蓄好きだ」とか、日常生活の中で耳にしたことがあるこれらの多くが、「公的統計」(Official Statistics)に基づいていることはあまり知られていない(意識されていない)と思います。

消費者物価指数の研究

公的統計には、人口に関する統計、消費に関する統計、企業に関する統計など、多くの分野がありますが、私が研究の対象としてきたのは「物価(物価指数)」です。「デフレ」や「デフレスパイラル」といった言葉は、何度となく見聞きしたものだと思います。こうしたインフレ、デフレの判断に利用されるのが「物価指数」、特に「消費者物価指数」です。消費者物価指数は、インフレ・デフレの判断だけでなく「物価スライド制(マクロ経済スライド)」等、様々な目的に利用されています。物価スライド制は、年金を例に挙げれば、「物価が上昇した場合、これまでと同じ商品を購入する際に必要な金額が増えるので、その分年金の支給額を増額します」という制度です。したがって、物価スライド制は「物価上昇に対する生活の保障」という性格を持ちます。年金額だけでなく、賃上げ交渉の場などで利用されることもあります。私が学部生であった当時、通っていた大学の「学費その他納入金一覧」を見たことがありました。学部ごとの一覧が掲載され

ていましたが、その下に「消費者物価指数の変動に合わせて、授業料も変動させます。ただし、現在は一時的にこの制度の適用を停止しています。」といった内容が書かれていました(正確な記述は覚えていません。また、この記事執筆の際に改めて2019年度の学費について調べてみましたが、こうした記述はありませんでした。ただし、当時の金額と比較して大きく値上がりしていたことには少し驚きました)。当時は「こんなところにも利用されているものなのか」と驚いた記憶があります。

私の問題意識は、「インフレ・デフレの判断材料として利用される場合と、物価スライドの参考指標として利用される場合とで、利用されるべき指数は異なるべきではないのか?」というものでした。インフレ・デフレの指標として求められるのは、純粋な価格の変動による影響を測定することであり、生活水準の変化は排除されるべきものだという事です。事実、消費者物価指数は生活水準の変化を含まないように設計されています。例えば、パソコンの性能が2倍になったものの、価格が据え置かれた場合には、「以前と同じ価格で2倍の性能を持つ商品が買えるようになった」、つまり「以前と同じ性能当たりの金額を計算すれば、半額になった」と捉えます。また、税金の負担が増えた場合、その負担増加は消費者物価指数の計算に含まれません。このように考えると、消費者物価指数を物価スライド制の指標として利用することには、大きな問題があると考えられます。私たちの日々の生活に直接影響を与える可能性が高く、慎重な検討が不可欠です。

こうした問題意識のもとで、「消費者物価指数は何を測定しているのか」、「物価スライド制に利用するにはどのような指数が望ましいのか」、「仮に望ましい指数があったとして、それと消費者物価指数はどの程度差があるのか」といったことを研究してきました(興味のある方はこのページに掲載されている本を図書館で読んでみてください)。

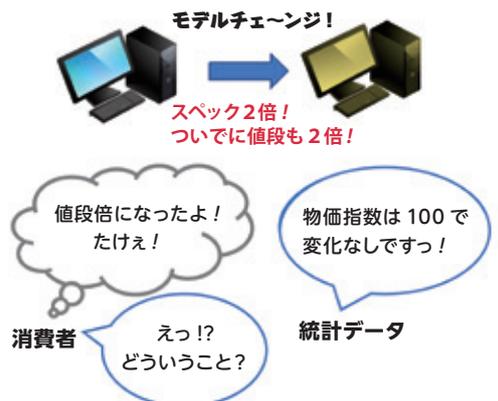
今後は物価指数だけでなく、格差を測定する指標や、金融統計なども研究したいと思っています。

データを利用、活用する

「統計法」では、公的統計は「社会の情報基盤としての統計」であるとの基本認識をとっています。ここで「社会の」とは、「国民一般のための」という意味です。つまり、公的統計は、私たちが合理的な意思決定を行うための基盤となる重要な情報であり、国もこれらを「どんどん使ってください」というスタンスをとっているのです。

しかし、これらの豊富な統計を有効に活用するためには、その統計がどのように作成されているのか、より具体的には、調査の対象は何か、調査項目はどのようなものか、利用されている用語はどのように定義されているか、等々、把握しておかなければならないものがたくさんあります。私自身まだまだ不十分ですが、学生の皆さんも「公的統計ではこういうデータが明らかにされているから間違いはない」とか、「国が公表しているものはみんな都合の良いように作られているんだ」と短絡的に考えるのではなく(ちょうどこれを書いている2019年1月現在、厚生労働省が所管する「毎月勤労統計」の問題が取り上げられていましたが)、ぜひ「統計リテラシー」を身に付けていただきたいと思います。

パソコン価格と物価指数の関係のイメージ



[平成 30 年 11 月・12 月] 経済学部フロンティア講座

先輩たちからのメッセージ

昨年度から始めた「経済学部フロンティア講座」を今年も開講しました。経済学部を卒業し社会で活躍されている先輩たちを講師に迎え、学生時代の経験や現在の仕事などについて語っていただく企画です。今年度は6名の先輩をお招きし、計5回開講しました。第1～4回は1年生を対象に、大学生活をどう過ごし、何を学んだかを語っていただきました。第5回は、3・4年生を対象に、「経済学部出身の経営者が語る・仕事のこと、働くということ」と題して、将来の就職に向けた心構えについてお話を伺いました。興味を持ったことは何でもやってみる、研究することは楽しい、目標をあきらめない、自分から行動を起こす、などなど、先輩たちから送られたメッセージは、受講した学生たちにとって大きな刺激となったでしょう。

[森下]



第1回：株式会社花の八幡屋商品部次長・鈴木康洋さん「私の北海道大学での生活～遠回りしたから得たもの～」
 第2回：NPO法人北海道エンブリッジ代表理事/浜中裕之さん「仕事をつくる力を身につける」
 第3回：札幌市西部市税事務所納税課/石垣まりやさん(写真①⑤)「大学は、自分次第で何でもできる場所!!～後悔しない大学生活、そして最高の人生を～」
 第4回：上野・横山・渡法律事務所/弁護士/横山和樹さん(写真②)「大学生活の中で私が考えてきたこと、そして現在の活動へ」
 第5回：株式会社坂口製粉所代表取締役社長/坂口幸司さん(写真③)「人間は総合力、大森園株式会社代表取締役/大森由美子さん(写真④)「人生七転び八起き」

[平成 30 年 12 月 18 日] 2 部財政学 II

2 部財政学 II で特別講演会開催

財政学の講義では、講義を通じて財政の制度や理論を学習するだけでなく、財政の制度を設計し執行する財務省・財務局にお勤めの本学卒業生から、財政に関する現場の声を聞く機会を設けています。この趣旨の下、本学卒業後に財務省北海道財務局で活躍されている上野浩二氏と田村正和氏を講師にお迎えし、標記講演会を開催しました。まず、財務局の業務について、本学卒業生の佐藤泰治・財務広報相談室長から説明をいただいた後、上野氏より、わが国の財政の現状と課題について、そのポイントを丁寧に説明していただきました。次に田村氏より、お金が公的部門と私的部門でどのように流れているのかを学生に発言を求めながら解説していただいた後、地方公共団体の財務状況(債務償還能力と資金繰り状況)把握について、その意義と把握の視点を説明していただきました。講演会終了後には、いままで財政学の講義で学んできたことが講演の中で随所にちりばめられていて分かりやすかった、講演内容は難しかったけど面白かった、という声が開かれました。上野氏、田村氏をはじめ、講演会開催にご尽力をいただいた皆様に、感謝申し上げます。

[野口]



講師の財務省北海道財務局理財部 特別主計美地監査官 上野浩二氏(写真左)と、財務省北海道財務局理財部 融資課 上席調査官 田村正和氏(写真中央・右)

[平成 30 年 11 月 17 日] セミナール、経済学部ゼミナール協議会主催

経済学部プレゼン大会が開催される

11月17日に、今年で10回目となる「学内プレゼン大会」が開催されました。この大会は経済学部ゼミナール協議会が主催し、学生主体で運営されています。今年度は10の基礎ゼミから計31チームがエントリーし、3つの会場を使って行われました。基礎ゼミでアカデミック・スキルを学ぶ1年生にとっては、学んだ成果を発表する良い機会となったことでしょう。

発表テーマとしては、「海賊版漫画サイト」や「イトイン・スペース」といった学生の日常生活に身近なものから、「VR(仮想現実)」や「AI(人工知能)」、「自動運転」といった最近話題になっているものまで多岐にわたりました。ユニークなテーマとして、「効率の良い तरी方」や「理想の結婚とは」などもありました。また、学内において「iPhone」の利用状況をアンケート調査したものもありました。10分間という短いプレゼン時間の中で、自分たちなりに論点を上手くまとめた発表ができていました。

残念ながら、近年は2年生以降のゼミの参加が少なくなっているため、今後も多くのゼミの参加を期待しています。[宇土]



[平成 31 年 2 月 13 日] キャリア支援センター主催 3 年次第 5 回就職ガイダンス

2019 年 就職活動が本格化

2020年3月に卒業をむかえる3年生にとって、3年次最後の就職ガイダンスが2月13～15日に行われ、3月1日からは採用情報が一斉に解禁され、本学独自の学内合同企業説明会が3月1、2、4、5日と行われました。好景気継続ともいわれ企業の採用意欲が高く、「売り手市場」感のあった2018年度は前年比で求人件数、就職内定率も高数値となっています。2019年度も引き続き同様の傾向。キャリア支援センター三浦裕幸係長は「公務員や大手企業を目指す安定志向の学生が多いですが、きちんと将来像を描き、就職後はどんなことができるのかを考えることが大事です」とアドバイスをしています。



第5回就職ガイダンス(写真左)と学内合同企業説明会(写真右)の様子